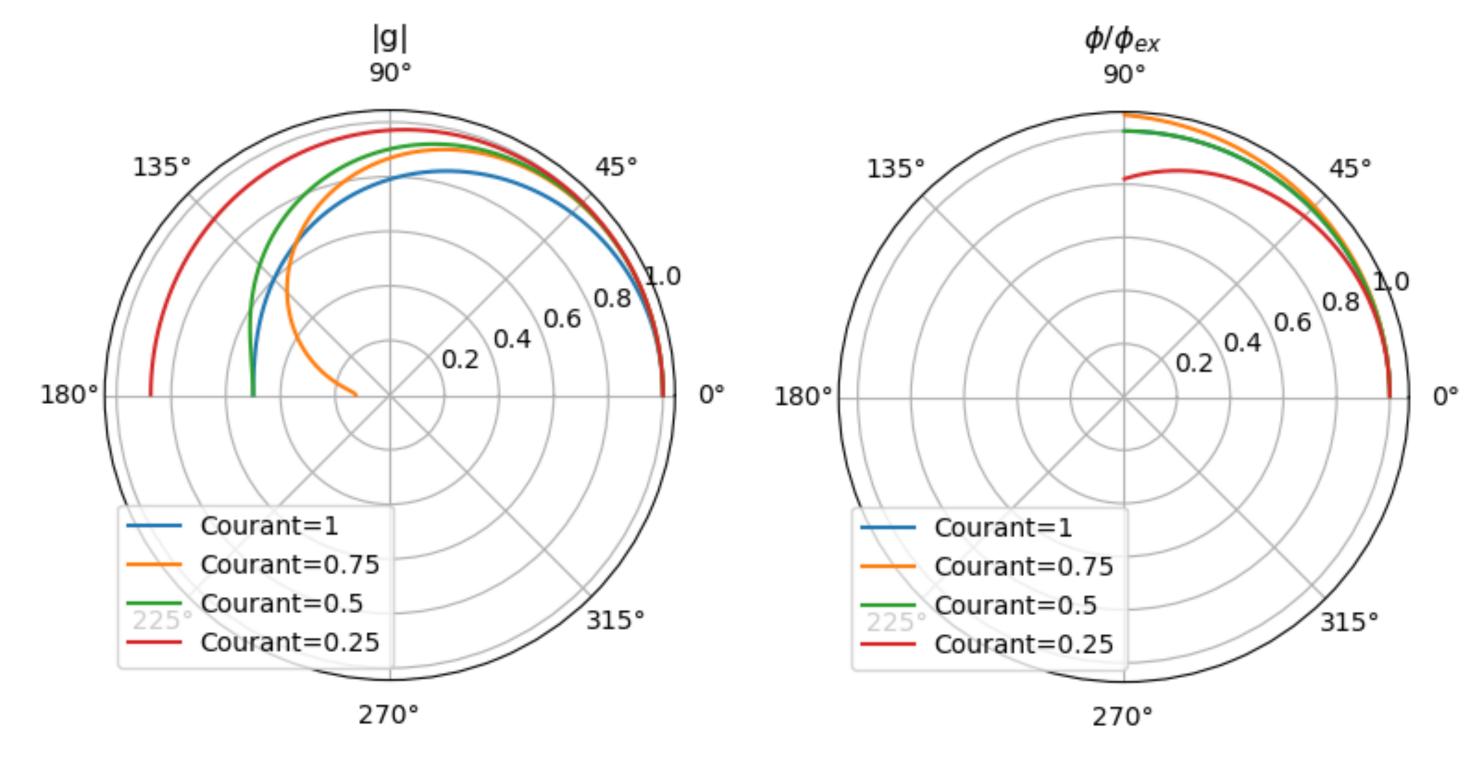
4.7.1次精度風上差分

$$g = 1 - \nu(1 - \cos\theta + i\sin\theta)$$

$$|g|^2 = (1 - \nu + \nu \cos \theta)^2 + (\nu \sin \theta)^2, \phi = -\arctan\left(\frac{\nu \sin \theta}{1 - \nu + \nu \cos \theta}\right)^2$$

図に起こすと以下のようになる.



→CFD条件の下では高周波成分が減衰しやすい.

 $\nu < 0.5$ で遅延位相誤差,

 $0.5 < \nu < 1$ で前進位相誤差となりそう.

4.8. 陽解法のまとめ

4.5において、Lax-WendroffスキームはFTCSスキームの修正だと述べたが、それは他のスキームにおいても言える.

FTCS:
$$u_j^{n+1} = u_j^n - \frac{1}{2}\nu(u_{j+1}^n - u_{j-1}^n)$$

まず、Lax-Friedrichスキームは

$$u_j^{n+1} = \frac{1}{2}(u_{j+1}^n + u_{j-1}^n) - \frac{1}{2}\nu(u_{j+1}^n - u_{j-1}^n)$$

$$= u_j^n - \frac{1}{2}\nu(u_{j+1}^n - u_{j-1}^n) + \frac{1}{2}(u_{j+1}^n - 2u_j^n + u_{j-1}^n)$$

Lax-Wendroffスキームは

$$u_j^{n+1} = u_j^n - \frac{1}{2}\nu(u_{j+1}^n - u_{j-1}^n) + \frac{1}{2}\nu^2(u_{j+1}^n - 2u_j^n + u_{j-1}^n)$$